

プッチーニ

“ La Rondine つばめ ”

11月8日に行われる音楽研究所 オペラ演奏研究プロジェクト公演に先立ち、
《La Rondine (つばめ)》に関する資料を展示します。

CONTENTS

《つばめ》の上演と度重なる改訂	2
あらすじ(初稿)	2
第2稿の主な変更点	3
第3稿の主な変更点	3
展示資料	4



企画 国立音楽大学附属図書館広報委員会

《つばめ》の上演と度重なる改訂

1913年10月、(西部の娘) (1910年初演)上演のためにウィーンに行ったプッチーニはレハールと交流し、レハールから紹介されたカール劇場の支配人たちから、オペレッタの作曲を依頼された。レハールの(ルクセンブルク公爵)の台本作家であるヴィルナーからの台本の草案を気に入らなかったプッチーニは、オペレッタを作曲する気は失い、「喜劇的で、軽やかな感傷的オペラ」として(つばめ)を作曲した。台本は結局イタリア語版を委嘱されたジュゼッペ・アダーミの手によっている。

第一次世界大戦が勃発したため、プッチーニに仕事を依頼したオーストリアは敵国になってしまった。ウィーン側はなお(つばめ)の初演の権利は確保していたが、プッチーニはイタリアにおける楽譜出版元を探した。それまでプッチーニの作品を独占的に出版していたリコルディ社では、先代のジュリオ・リコルディが亡くなり、息子のティートは(つばめ)に関心を示さなかったため、ライバルのソントォーニョ社が楽譜の出版を行い、また初演の興業権もウィーンから買い取り、(つばめ)は1917年3月、モンテカルロで初演されることになった。

初演: 1917年3月27日、モンテカルロ歌劇場

マグダ: ジルダ・ダッラ・リッツァ

ルッジェーロ: ティート・スキーバ

指揮: ジーノ・マリヌツィ

イタリア国内初演後の評論家からの批判により、翌年、第1幕にルッジェーロのアリアを追加したり、プルニエをバリトンに変えたりといった改訂作業を行い、第2稿の初演が1920年4月20日パレルモのテアトロ・マッシモで、ヴィットリオ・グーイの指揮で行われた。アダーミの歌詞をヴィルナーとハインツ・ライヒェルトが翻訳したドイツ語版(つばめ)のウィーン初演が1920年10月9日、フォルクスオーバーで行われたが評判は良くなかった。このため、作曲者は再度、改訂作業を行った。しかし、この第3稿は上演されることなく、手稿原譜と管弦楽資料は会社の倉庫に放置され、第二次世界大戦中の爆撃で焼失した。

わずかに、新しい曲の6ページを含む声楽スコアだけが残存している。その後、作曲者の(つばめ)への関心は失われ、改訂作業は中断されたままとなった。出版された楽譜はすべて初稿によるものであり、その後の(つばめ)の上演もほとんどがこの稿によっている。

第3稿の復元上演は音楽学者アルフレート・マンデッリの指導の元に、1987年6月ボローニャのテアトロ・コムナーレで行われた。オーケストラ譜が焼失したため、第3稿で追加された部分はピアノ伴奏で上演された。1994年、トリノのテアトロ・レージョでの再演では、作曲家ロレンツォ・フェッレーロが声楽スコアの管弦楽編曲を行った。

あらすじ(初稿)

登場人物

マグダ(S) / リゼット(S) マグダの小間使い / ルッジェーロ(T) ランバルトの旧友の息子 / プルニエ(T) 詩人 / ランバルト(Br) 銀行家、マグダのパトロン

第1幕

パリにあるマグダの家の豪華なサロン。ランバルトや友人たちが集まって談笑している。プルニエが恋愛について語り、新作の詩を披露するが完成に至らず、マグダが後を引き継いで仕上げ(ドレッタの美しい夢)、皆の称賛を浴びる。プルニエはマグダの手相を見て、つばめのように夢の国へと海を渡っていくが、また元の岸に戻ってくるだろうと占う。そこへランバルトを訪ねたルッジェーロが案内されてきて、一同からパリで最初の夜を過ごすのに相応しい場所はリエだと勧められる(*1)。皆が帰った後、プルニエはリゼットをマグダの衣装で着飾らせて連れ立って出て行き、マグダは小間使い姿に変装して一人で出かける。

第2幕

プリエの舞踏会場。人々の賑わいの中ルッジェーロは一人で座っている。マグダが入ってきて、言い寄る男たちを避けてルッジェーロの横に座る。ルッジェーロは彼女の変装に気付かず、二人は意気投合し、マグダは自分の名をポーレットと名乗る。そこにプルニエとリゼットが現れ、マグダを見たりゼットは驚くが、状況を察したプルニエがその場をごまかす(*2)。やがてプルニエはランバルトの姿を見つけてルッジェーロとリゼットを遠ざける。ランバルトはマグダと一緒に帰ろうと誘うが、マグダは恋を見つけたからここに残ると答え、ランバルトは後悔しないようにと告げて去る。マグダとルッジェーロは人気のなくなったホールで固く抱き合って出て行く。

第3幕

数ヵ月後、リヴィエラの海岸にあるマグダとルッジェーロの別荘。ルッジェーロは親元に金の無心をして、マグダとの結婚の承諾を求める手紙を出したことを語る。マグダは自分の過去を打ち明けるべきが悩む。そこにプルニエとリゼットがやってくる。歌手になるのに失敗したりゼットは再びマグダの小間使いとなり、プルニエはランバルトがいつでもパリに戻ってくるように言っていたことをマグダに伝えて行く。母親から結婚を承諾する手紙を受け取ったルッジェーロが嬉しそうに駆け込んでくるが、貞淑な花嫁を喜ぶ手紙を読んだマグダは自分の身の上を告白し、清らかな乙女を装って結婚することはできないと告げてルッジェーロの元を去る。

第2稿の主な変更点

- ・プルニエ役をテノールからバリトンに変更。
- ・第1幕、ルッジェーロのアリア「パリ、それは欲望の町」を追加>(*1)
- ・第2幕、合唱「あなたのさわやかなほほえみに乾杯」を四重唱へ縮小>(*2)
- ・第3幕、終幕部分の変更。

プルニエとリゼットがマグダをパトロンの所に戻るように説得する。

ルッジェーロは息子の結婚を祝福する母親からの手紙をマグダに読んで聞かせ、二人で母親を訪ねることを手紙で知らせるといって立ち去る。

プルニエがマグダにルッジェーロへの別れの手紙を書くよう説得し、マグダは指輪を外し、プルニエに支えられながら退場する。

第3稿の主な変更点

- ・第1幕、第2幕は初稿に戻す。
- ・第3幕は全面変更。

幕開けの愛の二重唱の初めの部分 前奏曲に変更。

マグダに装身具を売り込む三人の売り子の部分を追加。

終幕部分の変更。

ランバルトが登場し、復縁を暗示するつばめを象った飾りピンと財布をマグダに贈る。

ランバルトと入れ替わりに、ルッジェーロが登場し、マグダがランバルトの愛人であることを告げる匿名の電報を読み上げ彼女を非難する。

マグダは許しを請うがルッジェーロは聞き入れず、ランバルトが贈った財布に気が付き憤然として出て行く。

マグダは捨てられ、ただ一人残されて幕となる。

*参考文献

ジュリアン・バッデン著；大平光雄訳「ジャコモ・プッチーニ：生涯と作品」(請求記号 J110-733)

ウィリアム・ウィーヴァー、シモネット・プッチーニ編著；大平光雄訳「評伝プッチーニ：その作品・人・時代」(請求記号 J103-865)

スタンリー・セイディ編；中矢一義、土田英三郎日本語版監修「新グローヴオペラ事典」(請求記号 J114-154)

展示資料

パネル

ブッチーニ Puccini, Giacomo, 1858-1924

1910年～1915年頃

出典: Marchesi, Gustavo, and Marisa Di Gregorio Casati. Puccini: vissi d'arte, vissi d'amore : vita, immagini, ritratti. Parma: STEP, 2003. (p. 225)

ジュゼッペ・アダーミ Adami, Giuseppe, 1878-1946

台本作者

出典: Marchesi, Gustavo, and Marisa Di Gregorio Casati. Puccini: vissi d'arte, vissi d'amore : vita, immagini, ritratti. Parma: STEP, 2003. (p. 224)

ブッチーニの書き込みの見られるスコア

出典: Puccini, Giacomo. La rondine. RCA Red Seal, p1980. (解説 p. 7)

第1幕の舞台

出典: Puccini, Giacomo. La rondine. RCA Red Seal, p1980. (解説 p. 8)

第2幕の舞台

出典: Puccini, Giacomo. La rondine. RCA Red Seal, p1980. (解説 p. 8-9)

第3幕の舞台

出典: Puccini, Giacomo. La rondine. RCA Red Seal, p1980. (解説 p. 9)

ブッチーニと初演の出演者たち

左から：ジーン・マリヌツィ（指揮）、フランチェスコ・ドミニーチ（ブルニエ）、イネス・マリア・フェッラーリス（リゼット）、ブッチーニ、ジルダ・ダッラ・リッツァ（マグダ）、ティート・スキーバ（ルツジェーロ）

出典: Marchesi, Gustavo, and Marisa Di Gregorio Casati. Puccini: vissi d'arte, vissi d'amore : vita, immagini, ritratti. Parma: STEP, 2003. (p. 231)

初演が行われたモンテカルロ歌劇場

出典: Marchesi, Gustavo, and Marisa Di Gregorio Casati. Puccini: vissi d'arte, vissi d'amore : vita, immagini, ritratti. Parma: STEP, 2003. (p. 230)

初演（モンテカルロ）のポスター

出典: Marchesi, Gustavo, and Marisa Di Gregorio Casati. Puccini: vissi d'arte, vissi d'amore : vita, immagini, ritratti. Parma: STEP, 2003. (p. 224)

イタリア初演（ボローニャ）のポスター

出典: Marchesi, Gustavo, and Marisa Di Gregorio Casati. Puccini: vissi d'arte, vissi d'amore : vita, immagini, ritratti. Parma: STEP, 2003. (p. 227)

ローマ初演のポスター

出典: Puccini, Giacomo. La rondine. RCA Red Seal, p1980. (解説 p. 6)

ニューヨーク・シティ・オペラのポスター

ポーランド人のデザイナー・画家であるオルビンスキが描いたポスター（1993年）

出典: Passent, Agata, Rafal Olbinski, and Christopher Mount. Rafal Olbinski and the Opera. New York: Nahan, 2003. (p. 39)

楽譜

"La Rondine : commedia lirica in due [i.e. tre] atti di Giuseppe Adami, Artur Maria Willner, Heinz Reichert"

Milano : Casa Musicale Sonzogno di P. Ostali, c1994 請求記号 F23-331

初稿のヴォーカルスコアのリプリント版。付録として、第2稿からルッジェーロのアリア「パリ、それは欲望の町」、第3稿から第3幕が掲載されている。

"La Rondine : commedia lirica in 3 atti di Dr. A. M. Willner, Heinz Reichert, Giuseppe Adami"

Milano : Casa Musicale Sonzogno ; Wien : Universal Edition, c1968 請求記号 F0-610, 他

初稿のヴォーカルスコアのリプリント版。

"La rondine : commedia lirica in three acts"

Boca Raton, Fla. : E.F. Kalmus, [199-?] 請求記号 H41-570(第1・2幕)、H41-571(第3幕)

初稿のコンダクタースコア。

Michael Kaye "The unknown Puccini ; a historical perspective on the songs, including little-known music from Edgar and La Rondine, with complete music for voice and piano"

New York : Oxford University Press, 1987 請求記号 F20-242, 他

第2稿から第1幕のルッジェーロのアリア「パリ、それは欲望の町」、第2幕の四重唱「あなたのさわかやかなほほえみに乾杯」を掲載。

"Le prime ; libretti della prima rappresentazione = Premieres ; librettos of the premieres"

[Milano] : Ricordi, c2002 請求記号 X0-917

《つばめ》を含むブッチーニのオペラのリレット。

図書

edited by Stanley Sadie "The New grove book of operas"

London : Macmillan, 1996 請求記号 J84-172

texts, Agata Passent, Christopher Mount "Rafal Olbinski and the opera"

New York : Nahan : Distributed by Hills Press, c2003 請求記号 J100-109

testi di Gustavo Marchesi ; introduzione di Julian Budden ; iconografia a cura di Marisa Di Gregorio Casati "Puccini : vissi d'arte, vissi d'amore : vita, immagini, ritratti"

Parma : STEP, 2003 請求記号 J109-939

ジュリアン・バッデン著 ; 大平光雄訳 『ジャコモ・ブッチーニ : 生涯と作品』

春秋社, 2007 請求記号 J110-733

ウィリアム・ウィーヴァー, シモネッタ・ブッチーニ編著 ; 大平光雄訳

『評伝ブッチーニ : その作品・人・時代』

音楽之友社, 2004 請求記号 J103-865

南條年章著 『ブッチーニ』

音楽之友社, 2004. (作曲家・人と作品シリーズ) 請求記号 J102-729, 他

スタンリー・セイディ編 ; 中矢一義, 土田英三郎日本語版監修 『新グローヴオペラ事典』

白水社, 2006 請求記号 J114-154

野崎正俊著 『詳解オペラ名作 127』

ショパン, 2006 請求記号 J107-584

映像資料

「ブッチーニ」作曲家の生涯と作品を紹介するドキュメンタリー 請求記号 VE1511

ロザンナ・カテルリ(ソプラノ)、ジュゼッペ・ジスモンド(テノール)、ヴィンチェンツォ・ベレッツァ指揮、ナポリ・サンカルロ劇場管弦楽団、合唱団、他 1958年録画 請求記号 VE2193

使用楽譜：初稿。

フィオレンツァ・チェドリンス(ソプラノ)、フェルディナンド・ホルターリ(テノール)、カルロ・リッツィ指揮、フェニーチェ劇場管弦楽団、合唱団、他 2008年録画 請求記号 VE2255

使用楽譜：初稿。

スヴェトラ・ヴァッシーヴェ(ソプラノ)、ファビオ・サルトーリ(テノール)、アルベルト・ヴェロネッシ指揮、ブッチーニ祝祭管弦楽団、合唱団、他 2007年録画 請求記号 VE2369

使用楽譜：第3稿に基づいた3つの稿の融合版。第3幕の終結部分はロレンツォ・フェッレーロによる管弦楽編曲。第2稿第1幕のルッジェーロのアリアを追加。

アイノア・アルテータ(ソプラノ)、マーカス・ハドック(テノール)、エマニュエル・ヴィヨーム指揮、ワシントン・ナショナル管弦楽団、他 1998年録画 請求記号 VE2518

使用楽譜：第3稿に基づいた3つの稿の融合版。絶望したマクダの死を暗示して終らせる演出。

録音資料

キリ・テ・カナワ(ソプラノ)、ブラシド・ドミンゴ(テノール)、ロリン・マゼール指揮、ロンドン交響楽団、アンブロジーアン・オペラ合唱団、他 1981年録音 請求記号 XD3138-3139, XD9334-9335

使用楽譜：初稿。

アンジェラ・ゲオルギュー(ソプラノ)、ロベルト・アラニーヤ(テノール)、アントニオ・パッパーノ指揮、ロンドン交響楽団、ロンドン・ヴォイセス、他 1996年録音 請求記号 XD37698-9

使用楽譜：初稿。第2稿第1幕のルッジェーロのアリアを追加。

展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2009/10/13 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 三宅蔵・二塚恵里